

泉 驛 列 車 火 事

十六日平驛着午前九時五十分二
 ○一號旅客列車が九時三十分八分
 頃常盤線泉驛で前部から三輛目
 の列車の屋根から発火してゐた
 のを驛員が発見直に消し止めた
 原因は機関車からの飛火らしい
 それが爲め十四分遅發した。

創立十五週年記念として 五中學校對抗 野球試合舉行

本社は今年六月を以て創立十五週年に達
 するので紀念の計劃として五中學校野球部選
 手を平町に招き對抗野球試合を舉行する事
 に致しました。各位の熱烈な御後援を仰ぐ
 次第であります。

- 一、期 日 六月上旬
 - 一、場 所 平町磐城中等學校庭
 - 一、参加校 磐城中等學校、双葉中等學校、相馬中等學校、田村中等學校、安積中等學校
 - 一、試合はトーナメント式による
 - 一、優勝校に優勝旗贈呈
- 詳細は追て發表

主催 磐城時報社

汀にたぐすみて

磐城四年 門馬セキ
 ザブリ!!ザブリ!!...寄せては
 砕け、砕けてはパツと白いし
 ぶきを海面に散らしては、す
 べりながら大波小波と戯
 れながらあら玉の鏡の面を夢
 の國か詩の國かと思ひながら
 波の調べにつれて高く低く妖
 艶な舞をしては、時々丘の静
 けさを目に觸れ、又面白げに

飛び舞うて居る。キツク
 彼方の水平線は金色に輝き、
 赤、黄、白の夕雲が山際
 近く棚引いて、黄金の光の波
 が、ザブリ!!ザブリ!!...真
 砂を洗ひ去る。初夏の濱風が
 水面を滑つては、さつと此方
 の松林をなびかせて居る。
 町の家からは、太く、細く、
 ゆるやかな煙が空高くなびい
 て居る。遠く豆腐屋のラッパ
 かねたれして居る中に夕空の
 色も褪せて、すべての感情を
 包んだ夕霞が町を包み海を覆
 ひ私の身邊までひたひたまで走
 つて来る。

天には寶玉をちりばめた様な
 星がまた、いて、望月は空に
 ゆらめき、その影を水面にう
 つして居る。
 あたりは眞暗!!人の影さへ臆
 氣になつた。彼方の一角に螢
 ゆる燈臺からは神秘的な夜の
 海邊に干々に光を投げ居る
 涼い夜風がさつと、自然の美
 に恍惚として居る私の夢を覺
 ます。そして、初夏の濱邊の
 夜はまた、と更けて行く。

鳥 柳 御料理
 舞 子 井 川
 仕出しは迅速配達致します
 平町南町小館隣り
 電話四二四番

平町紺屋町
 吉田眼科
 電話六八番

驚いた!!!
 こうまで安いとは
 平・加納活版所の印刷物

山崎合名會社

福島縣平町
 電話(營業部専用)一〇番
 (一般用)二七番
 振替東京一九七五五番

東京支店

上野車坂四三三
 電話下谷五七二二番
 振替東京六八三二二番

營業種目 石炭、コークス、玉炭
 磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
 ◎磐城炭礦ノ最上石炭
 正味十貫目入 壹俵 金六十五錢
 ◎日本テ一番評判ノ良イ東京瓦斯コークス
 コークス 壹俵 金壹圓參拾錢
 ◎木炭ノ三倍御徳用ナ
 玉 炭 大箱壹箱 金貳 圓

阿部石炭商店

電話二三三七

朝日煙突

石綿セメント製
 絕對に
 はぜない!!!
 やけにくい!!!
 くさらない!!!
 経済的で
 火災の心配がない

特約店 釜屋商店
 電話九三九

浪界巨頭 龍甲齊虎洲 來

來る四月廿一日、廿二日の二日間
 於 四 倉 座

江戶前料理

花 見 金 貳 折 詰
 金 貳 拾 錢
 す し 金 貳 折 詰
 金 貳 拾 錢 以上
 設備も完全に出來ました。江戶前の職人を以て調理しお
 客様に御満足を得る様にとめます。せひご利用下さい。
 電話六三三番 魚 清

十八日三月第一回特別大興行

義 演 劇 王 坂東妻三郎 獨占の妙技
 外 傳 喧嘩安兵衛 全
 吞平安、赤鞘の安、喧嘩安、八丁堀の安、酒
 豪中山安兵衛の半生は斯界の王者阪妻によつ
 て悉く描かく (説明 泉 天明)

演 花 入 子 主 演
 群小プロダクションの模倣製作映畫に非ず
 大日活の 君 戀 し 全
 小唄映畫 洋守精一、島耕二、佐久間妙子
 助演三樹登、獨唱 中屋幸子嬢
 (説明 若月 柯村)

河部五郎主演、葛木香一、澤村春子、
 市川小文治、常盤操子
 三部曲 赤 垣 源 藏 全
 昨年四月よりの浪々に源藏、暑さ寒さにいか
 いお世話になりましたが...サテ今晩は...
 涙を知らぬ源藏が其の後の討入嶺山郎に兄の
 羽織に血涙を呑む決別の姿。(説明 石井 孝)

二十一日 日活 平 館
 (入場料) 松竹 電話六六
 (普通) ありませぬ